

【宗田議長のコメント】

今回、彦根城の世界遺産登録に係る初めての国際会議を開催し、大きな成果を上げることができた。

彦根城を世界遺産に登録する意義の一つは、彦根市・滋賀県が取り組んできた城郭や江戸時代の研究成果を世界に発信し、世界共通の価値として認めもらうことにある。1993年の姫路城世界文化遺産登録以降、世界遺産を巡る国際的な議論を踏まえ、歴史研究を蓄積し、文化財の保存と学術的活用のあり方を模索してきた。その成果として、彦根城の新しい価値を発信することで、多様な文化を相互に認め合う世界遺産条約の取組みに貢献することを目指した。

新しい価値とは17世紀の日本の統治体制（将軍と大名による体制）の仕組みであり、その顕著で完全な見本が彦根城である。この仕組みで、大名は将軍と地域共同体の間に立ち、統一政権の地方組織として機能すると同時に、領内の政治に裁量権を有して、自律的な統治のもと、領地の安定と発展の維持に責任を持っていた。この世界的にユニークな将軍と大名の関係によって、全国統一と地方の自律的な発展が維持され、長期間にわたる日本の安定が実現されたと説明した。

国際会議の目的は、この大名の拠点としての機能をよく伝える彦根城固有の価値について、海外の世界遺産の専門家と議論し、どうぞ理解いただけるか、それは世界遺産にふさわしい価値か、また課題があるとすればどの部分を明らかにすることにあつた。東アジアの近世城郭を比較し、またヨーロッパの城郭に照らしても、この彦根城の特徴的な価値とその証明の有効性について十分な理解が得られたと思う。こうして、彦根城の世界遺産登録の可能性に、海外の専門家と共通認識を持つことができたと考える。これが国際会議の成果である。

また、国際会議では、価値の証明の一層の追求や比較研究の充実など、今後必要となる作業や課題についてもご指摘いただき、次に解決すべき課題や具体的な作業の方向性が明らかになった。彦根城の世界遺産登録に向けた滋賀県と彦根市の調査研究が一層進展することを期待し、多くの県民、市民の皆さんのご理解を賜り、ご期待に応えられることを願う。